



(写真提供) PMS/ペシャワール会

「中村哲写真展

一次世代へ継ぐ強さと優しさ 医療活動を中心に」関連企画

ドキュメンタリー映像上映会

2024 8.23 **金** - 8.24 **土**

九州大学医学図書館 3階会議室
(病院キャンパス)

入場無料
要申込

8月23日(金)

13:30 『国境を越えて』 (KBC, 1992, 24分)

14:00 『良心の実弾』 (KBC, 2020, 48分)

15:00 『医師中村哲の仕事・働くということ』 (NDN, 2021, 47分)

8月24日(土)

13:30 『荒野に希望の灯をともす』 DVD版 (ペシャワール会企画; NDN, 2021, 88分)

15:15 『カカ・ムラド：中村哲の信念』 (TNC, 2020, 35分)

申込はこちら↓



主催 九州大学医学図書館

問合せ先 医学図書館閲覧係

Tel : 092-642-6037 E-Mail : tieetura@jimu.kyushu-u.ac.jp



九州大学附属図書館
Kyushu University Library

上映作品紹介

8月23日(金)

13:30～『国境を越えて～ペシャワールの日本人医師～』KBC（九州朝日放送）制作,1992,24分

中村哲医師のアフガニスタン現地の活動の様子をKBCが日本メディアとして初めて取材、構成したドキュメンタリー。番組では、パキスタン・ペシャワールのハンセン病病院、ソ連侵攻の傷跡が残るアフガニスタン・ダラエヌールに開設した診療所、パキスタンの山岳地帯の訪問診療などでの医療活動を記録している。

14:00～『良心の実弾～医師・中村哲が遺したもの』KBC（九州朝日放送）制作,2020,48分

中村医師と共に事業を行ってきた人々、友人など親交のある人々の証言を軸に制作した作品。過去の映像や数々の証言、中村医師が、自身の著作や支援を受けるNGOの会報に遺した多くの言葉から、中村医師の人生を辿る構成となっている。タイトルは、ペシャワール会報16号（1988.7）に掲載された1987年の活動報告書の一節「『それぞれのペシャワール』に向けて良心の実弾をぶち込め」から。

15:00～『医師中村哲の仕事・働くということ』日本電波ニュース社制作,2021,47分

アフガニスタンとパキスタンで、病や戦乱、そして干ばつに苦しむ人々のために35年にわたり活動が続けた医師・中村哲。自身の活動について、こう記している。

「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが、唯一の譲れぬ一線は、『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である。」（中村哲『医者、用水路を拓く』）生涯をかけて、現地の人々と共に、現地の人々のために働いた中村哲医師。その軌跡を通し、「働く」とは何かを考える。

8月24日(土)

13:30～『荒野に希望の灯をともし～医師・中村哲 現地活動35年の軌跡～』DVD版

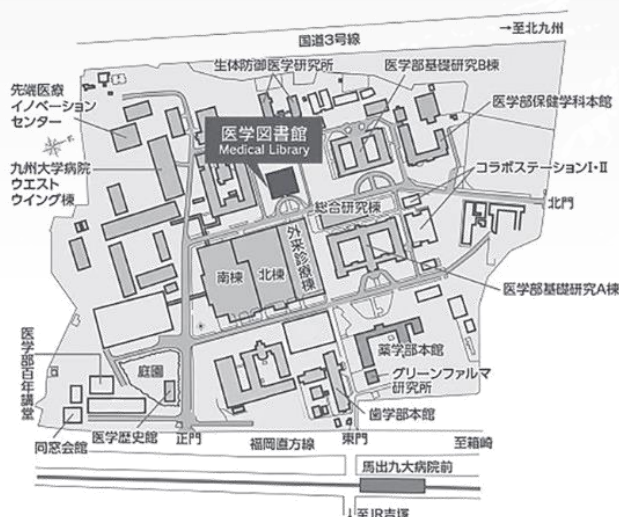
ペシャワール会企画・日本電波ニュース社制作,2021,88分

35年という長きにわたり、病や戦乱そして干ばつに苦しむ人々に寄り添いながら命を救い、生きる手助けをしてきた中村哲医師。中村医師が命を賭して遺した物は何なのか、その視線の先に目指していたものは何なのか、その実践と思索を読み解く映像記録DVD。

※劇場版「荒野に希望の灯をともし」とは内容が一部異なりますので、ご注意ください。

15:15～『カカ・ムラド：中村哲の信念』TNC（テレビ西日本）制作,2020,35分

「カカ・ムラド」は現地の言葉で「中村のおじさん」や「情熱おじさん」という意味。住民が中村医師のことを親しみと敬意を込めてそう呼んでいたという。中村医師が1984年にパキスタンの病院に赴任した後、隣国アフガンでも医療事業を進め、大干ばつを受けてかंगाい事業も展開した足跡を現地映像や関係者へのインタビューを交えて紹介する。また、北九州市若松区で過ごした幼少期など、その信念の「原点」にも迫る。



空路

福岡空港→(地下鉄空港線)→「中洲川端駅」
(貝塚方面へ垂換・地下鉄箱崎線)→「馬出九大病院前駅」

JR

「JR 博多駅」→（地下鉄空港線）→「中洲川端駅」
（貝塚方面へ乗換・地下鉄箱崎線）→「馬出九大病院前駅」
「JR 博多駅」→「JR 吉塚駅」

西鉄

「西鉄福岡駅」→（地下鉄）→「馬出九大病院前駅」

高速バス

天神バスセンター下車→（地下鉄）→「馬出九大病院前駅」

住所

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1